

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1192500468		
法人名	有限会社 アートライフ		
事業所名	あおぞら南永井		
所在地	埼玉県所沢市南永井2-7		
自己評価作成日	令和5年1月23日	評価結果市町村受理日	令和5年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・建物が平屋造りとなっており、広く開放感があり、職員間の協力体制が取りやすいです。 ・eラーニングを活用した研修態勢、資格支援制度を活用しており、職員のスキルアップ、サービス向上に努めております。 ・家庭的な環境を作るように配慮しながら生活支援をおこない、看取り介護までおこなう事で、ご入居者様の人生の最期まで関わらせていただいております。 ・周辺が緑や畑に囲まれた環境にある為、施設内外の散歩、外気浴をおこないながら、季節の移り変わりを感じられる生活を送っていただいております。 ・個々のご入居者様の生活における要望、周辺症状に対して職員が理解して個別ケアを優しく、丁寧に実践しています。 ・生活の場としてだけでなく、ADL低下を防ぎ、残存能力の維持、認知症の進行予防の為に取組みをおこなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・「入居者は1人ひとりそれぞれ違う」との考えのもと、個性を大切にその人らしく生活を送られるよう支援がなされている。また、認知症にとらわれず、人生の先輩として接することを職員間で共有されている。 ・コロナ禍であっても感染対策を徹底させ、外出や面会などできることを行い、更に事業所の中ではお菓子作りや駐車場でのお花火などを楽しまれている。家族には毎月「あおぞら便り」を送り、その時の入居者の様子が伝えられ、家族からも高い評価を得られている。 ・運営推進会議は2年ぶりに開催され、家族を中心に参加していただき、コロナ禍での家族の不安、入居者の現状などが話し合われ、相互理解に努められている。 ・目標達成計画の達成状況についても、災害発生時の役割分担や職員連絡網などの点検に力を入れ、消防署とも連携し、ひとつひとつの事例への対応をみんなで考えられたことから、目標が達成されている。更に、夜間想定訓練も実施され、職員のかけつける順番などの協力体制づくりに取り組まれている。
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	皆が目にする場所に理念を開示し常に目を通してようになっている。	「その人らしさを大切に」を理念に入居者は一人ひとりが違うこと、個別にコミュニケーションをとることを大切に介護が行われている。認知症にとらわれず、人生の先輩として接することを職員間でも共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政の指導もあり新型コロナウイルス感染症対策の為現在は地域交流をおこなっていない。	日常的に近隣とのコミュニケーションづくりに取り組まれ、散歩時の挨拶や農家の方から野菜をいただくなどの交流が図られている。今後はコロナの状況を考慮しながら、地域とのつながりを増加させることも検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為地域交流は積極的におこなっていないが福祉専門学校学生の実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為運営推進会議は延期している。個別で電話にて現在のご様子をお伝えしながら要望や意見を聞いてサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2年ぶりに開催され、訪問診療、本社マネジャー、家族4名が参加されている。コロナ禍での家族の心配、現状がわからない不安などの意見が出され、また外出が緩和されたらお墓参りに行きたいとの要望もあり、事業所運営にも役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対策におけるサービス取組みについて相談している。生活保護者の受入れをおこない協力関係を築いている。	市担当者とは密に連絡をとり、疑問点や相談などを電話や訪問で行われている。また福祉課とは生活保護の入居者の受け入れやサービス提供内容の確認なども実施され連携がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。不審者の侵入を防ぐ為に玄関の施錠をおこなっている。	身体拘束適正化委員会は3か月に1度開催され、さらに毎月全職員にセルフチェックを行い、自分とお互いを律するよう取り組まれている。またグループホームとしての取り組みを家族にも説明し、理解を得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の資料を用いた全体会議を開催し周知徹底をおこなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	eラーニングで個別研修をしながら職員会議での資料回覧をおこない周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の見学、申込、契約、入居の各段階での説明を重ねておこなっている。電話連絡にて不安や疑問を確認して答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症対策の為運営推進会議は延期しているが電話にて意見や質問を頂き回答は書面にして郵送している。職員へは書面を回覧している。	入居者からは「外に出たい」との要望が多く、散歩に出かけたり、プランターの水やりをするなど対応されている。家族からは「様子が知りたい」「現状がわからないのが不安」などの声が聞かれ、オンライン電話や外での面会などが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット単位や全体の会議を開催している。職員の意見を聞き代表者へ伝え運営に役立っている。	カンファレンスで職員からは1人ひとりの入居者に何をしてあげたいかの意見が出され「外に花見に行く」などの企画が出されている。現場での職員間のコミュニケーションもとれ、職員の声が事業所の方針決定にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新型コロナウイルス感染症対策の為外部研修を控えている為オンライン研修を受けられる支援をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には理念や介護の心構えなど基礎から指導している。全職員がeラーニングを受講してスキルアップに役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策の為同業者との相互訪問の機会は少ないが地域包括支援センター、市の介護保険課、居宅支援事業所から他の取組み状況や運営方法の情報を集めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを活用し生活歴や趣味等々の情報を得ながらご入居者様とコミュニケーションを取り不安要望がないか傾聴して信頼関係をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にどのようなサービスを受けていたのかご家族様から伺い現状での確認をおこなっている。その上でご入居様のニーズに合ったサービスを提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様から困っている事を聞き支援すべき内容や実状を把握してその人らしい生活が送れるようサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の「こだわり」「できること」「やりたいこと」を尊重し見定めながらご入居者様の自信に繋がるようおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防の為ご家族様のみ健康確認をおこなった上で居室での短時間面会を支援している。毎月のお便りで普段のご様子を伝えてご入居者様の変化等を理解していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策の為面会のご家族様のみ受入れているが馴染みの方とは電話にて関わりを支援して途切れないよう努めている。	コロナ禍にあっても以前からのつきあいは大切にされ、近所の方や職場の仲間、鍼灸マッサージ師などと写真付の手紙などで交流されている。また事業所内でも昔馴染みの遊びやレクリエーションを楽しむ支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちなご入居者様には職員が仲介して交流の場を作り環境作りをおこなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時に電話連絡を取る等と相談しやすい環境作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人様の思いや意向を把握する傾聴や観察をおこない職員同士で検討している。	聴覚の不自由な入居者とはホワイトボードでコミュニケーションをとるなど工夫しながら関わる機会を増やし、思いや意向の把握に取り組まれている。出身地や子供のころのことなどを話題にし、わかったことは職員全員で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様から現状や趣味嗜好、生活歴を聞き取り支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録を取り生活の現状把握をおこない日々の変化に注視するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスをおこないモニタリングを実施し、それぞれの課題を定期的に話し合う場を設けて計画書に反映させている。	入居者の言葉でわかりやすいケアプランが作成されている。また通常のサービス内容に加えて個別の生活プランを作成し、「食事・入浴・睡眠・身だしなみ・会話・移動」などを盛り込みケアプランの実施に繋がられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートで情報共有をして日々の様子を把握する事により検討や対応をおこなえるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様に現状の満足度等の確認をおこないサービスの内容の見直しを必要に応じておこなうよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染予防の為現在は地域資源との協働は延期している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や訪問看護、訪問歯科があり、ご入居者様の急な体調変化にも往診での対応ができており、状態や希望に応じている。	日常の健康管理は協力医療機関と薬局が連携し、入居者の健康状態を把握されている。かかりつけ医の受診には家族に加えて職員も同行され、受診結果は申し送りシートで職員全員に共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者様の観察をおこない気になる事は電話や定期訪問時の相談シートに記載して主治医等に指示を仰いでもらえるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には介護サマリー作成し病院での看護に役立つようにしている。入院中は病院相談員と連絡を密にし退院後の支援に役立たせている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しており、本人状態によって施設での対応に限界がある事を伝え、利用者本人を最優先に考えている。	重度化、終末期に際しては、入居者の状態に応じて主治医や訪問看護師が同席の上、随時話し合いを持たれている。また、看取りも実施され、家族にも来所していただき会話をされるなどの支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナ感染対策の為外部研修を延期しているが施設内研修を定期的開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防署立会いの避難訓練、消防訓練をおこなっている。	火災や水害の発生に対する対策を検討し、特に火災発生時の避難方法を消防署にも相談され、アドバイスをいただいている。また夜間想定訓練も実施され、職員のかけつける順番などの協力体制づくりにも取り組まれている。	災害はいつ起こるか予測が困難なため、特に夜間発生時の職員の集合や安否確認、更に勤務者は何をするのかなど具体的な対策を作られることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴を理解把握しながら人生の先輩に対する敬意ある態度と姿勢で言葉をかけたり、接するように心がけている。	入室時や排泄時の基本的なルールを守り、1人ひとりの尊厳も大切にされている。職員はそれぞれのケアの場で、プライバシーや羞恥心へ心を配り、入浴介助時の職員の立つ位置などにも注意がなされている。	入居者一人ひとりを尊重し、職員が自信をもって業務にあたれるよう高い技術や資格を目指す取り組みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図る機会を多く持ち、表情や言葉から希望する気持ちを汲み取り、実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを理解把握し個々のリズムに沿って無理なく心地よく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、身だしなみに気遣いし利用者の好みの服装で過ごせるようにその都度本人の意思を確認している。二か月に一回出張の理美容を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	写真付きメニューを貼り出して食事への楽しみを持っていただき、食事の用意や食器洗い等を協力しておこなっている。食事中は職員との会話も多く時間を共有している。	苦手な食べ物やアレルギーなどには代替品を使い、「本人の満足」を最優先に支援が行われている。また行事食もふんだんに取り入れ、おはぎにフレンチトースト、うどんや焼きおにぎりなどが提供され入居者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の嗜好に合わせて禁食には代替品の提供や個々の咀嚼嚥下の状態に合った提供をおこなっている。外注である為、栄養バランス等は考えられている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが健康状態と密接に繋がりを念頭に置き、口腔内の清潔保持に気を付けて毎食後の歯磨きの支援をおこなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンの把握を行い、一人一人に合わせた声掛けやトイレ誘導、パッドの使用などにより排泄の自立を促すように努めている。	トイレでの排泄を基本に自立支援に取り組まれている。退院時尿意がなくなっていた方に定期的に声を掛け、パターン化とトイレ誘導を図り、自分からトイレに行かれるようになった例もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排便状況の把握を行い、医師との連携を図りながら、個人に合った支援を行っている。また、9時と15時に乳製品の摂取を行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に意向を確認し、入浴拒否のある方においても声掛け等の工夫を行い、清潔が保たれ、気分転換にもなるよう、個々に沿った支援をおこなっている。	職員と1対1の個浴で、会話を楽しみながら入浴いただいている。職員が見守りする位置などにも工夫を図り、「監視されている」を感じさせず、お風呂をゆっくり楽しめるよう支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣や体調に応じて休息が行えるよう、日頃の状況を把握し、声掛けなどにより安心して休める様に配慮し、休息中も状態把握の確認をおこない必要に応じて体位変換等の支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用を理解するよう努め、服薬内容の変更の際は申し送りを周知徹底し、また、様子観察を行っている。誤薬や飲み忘れ防止の為に二重確認をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、個人に合わせた家事等の役割を分担し、自信を持って過ごせるよう支援をおこなっている。歌や体操、娯楽などの嗜好の把握を行い、誕生日会等のイベントを実施し、気分転換を図り、張りのある日常を過ごせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、外出支援が難しい状況ではあるが、施設の玄関先での日浴や施設周辺の散歩を行い支援可能な範囲で行っている。	行動が制限される中、外にでることに様々な工夫を図り、ドライブで市内の公園やよく行っていた美容室の前を通ったりするなどの支援が行われている。外出の様子は「あおぞら便り」で家族にも伝えられ理解を得られている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナ感染対策として買物同行の支援は中止している。お金は事務所にて預かりお小遣いとして使えるようになっており、利用者が希望する物があればお小遣いから職員が代行して買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれている方や本人が希望すれば事務所の電話等から連絡はできる。LINEのビデオ通話を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と共に季節に合った飾りつけをおこなったり、製作の展示、行事の写真を掲示している。	木のぬくもりが感じられ、行事の写真やメニューを貼り出し季節感、生活感のある共用空間が作られている。また入居者が孤立しないように話しやすい方と同じ席にしたり、フロアや居室のモップかけに参加いただくことなどの支援が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	平屋造りの為、両ユニットや玄関への行き来は自由に行ける。玄関にもソファを設置しており、休憩できるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類や日常品はご家族と相談しながら使い慣れたものを持参して頂いている。趣味嗜好にあったものを飾って頂く。	それぞれの「居室」の雰囲気を大切にされ、自分の思い出の品を持ってきていただいている。居室で好きなことをする機会を多く設けられ、クラシックのCDを聴かれたり、英語の書籍を読まれるなどそれぞれのペースで楽しまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室や席には名前を貼っている。できる事を尊重し自由に生活して頂いている。		

(別紙4(2))

事業所名: あおぞら南永井

目標達成計画

作成日: 令和 5年 6月 14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害はいつ起こるか予測が困難なため、特に夜間発生時の職員の集合や安否確認、更に勤務者は何をするのかなど具体的な対策を作ることが課題。	消防訓練以外でも、定期的に避難訓練を実施。夜間に災害が発生した場合の集合場所や安否確認方法を周知する。	2ヶ月に1回を目標に避難訓練を実施。夜勤勤務者対象に、災害が発生した場合の集合場所や安否確認方法を周知する。	3ヶ月
2	36	入居者ひとりひとりを尊重し、職員が自信を持って業務にあたるよう、高い技術や資格を目指す取り組みが課題。	全員の職員が入居者様を尊重し、自信を持って業務にあたるよう技術資格習得できる環境を目指す。	入居者様へ尊重して関りを行えるように、周知徹底。技術など不安な職員がユニットリーダーや先輩職員に確認できる環境づくりを行う。資格習得に向けて、法人内での資格支援制度の周知徹底を行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。